



KOCHI ART
FESTIVAL 2024

令和6年度第74回高知県
芸術祭

事業実施
報告書

令和6年

9.14_[土]▶12.15_[日]

県民の文化芸術活動を支援・発信していきます。

第74回高知県芸術祭事業実施報告書

発行日 令和7年3月21日

発行 高知県芸術祭執行委員会
高知市高須353-2(公益財団法人高知県文化財団)
TEL 088-866-8013 FAX 088-866-8008

印刷 筒井紙業印刷株式会社
高知市石立町158 TEL 088-831-6569



目次

第74回高知県芸術祭を顧みて 高知県芸術祭執行委員会 委員長 新納朋代	1
第74回高知県芸術祭 概要	2
助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2024」申請要項・選考結果・実施報告	4
助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2024」事業報告会	13
第53回高知県文芸賞 応募状況等・受賞者一覧	15
プレイベント「土佐女子中学高等学校書道部パフォーマンス」	17
第74回高知県芸術祭オープニングイベント 「街角アートステージ 高知・香南ジュニアオーケストラ合同コンサート」	18
メインイベント 「歴史的ピアノとチェロが奏でる19世紀の響きDuo Yamaneコンサート」	18
プチイベント「和楽器コンサート」	19
メインイベント「ミュージックホリデーin佐川」	20
メインイベント「げいぶん寄席 笑楽座in弁天座」	21
共催行事	22
協賛行事	26
高知県芸術祭執行委員会 委員名簿	32



第 74 回高知県芸術祭を顧みて

今年で74回目を迎えました『高知県芸術祭』は、広く県民が芸術に親しみ、高知の文化芸術の魅力を発信、再発見する事業として毎年秋に開催しております。これまで多くの方々の温かいご支援、ご協力により無事に開催し続けてこられましたことに、改めて厚く御礼を申し上げます。

今年度は、9月14日（土）～12月15日（日）の約3か月間にわたり、7つの主催事業をはじめ、助成事業「KOCHI ART PROJECTS」14、共催行事22、協賛行事39の計82行事が実施され、参加者総数は114,952人*となりました。

主催事業としまして、昨年に引き続き、高知市帯屋町商店街でプレイベント「土佐女子中学高等学校書道部パフォーマンス」を開催し、会場は多くの来場者で賑わいました。イベントの様子は各報道機関で取り上げられ、芸術祭の開幕を広く周知することができたと考えております。また、オープニングイベントは、高知市と香南市のジュニアオーケストラが合同で、高知市大橋通り商店街にて演奏を披露いたしました。そして、メインイベントとして「歴史的ピアノとチェロが奏でる19世紀の響きDuo Yamaneコンサート」を高知県立県民文化ホールで2日間開催し、世界を舞台に活躍する一流のアーティストによる演奏をお届けすることができました。本年は、ほかにもメインイベントとして、佐川町桜座で世界の音楽が一堂に会したコンサート「ミュージックホリデーin佐川」、香南市赤岡町弁天座で落語・奇術による「げいぶん寄席 笑楽座in弁天座」を開催し、どちらのイベントも、地域の方々に楽しんでいただけたと思います。さらに、「和楽器コンサート」を新たにプチイベントとしてイオンモール高知で行うなど、多岐にわたるイベントを開催いたしました。

一方、県内の多くの方々から応募をいただいております「高知県文芸賞」は、今年で53回目となり、短編小説・詩・短歌・俳句・川柳の5部門で延べ788人から2,029作品の応募がありました。文芸賞及び文芸奨励賞には小中学生を含む26人の方々が選ばれ、佳作受賞者は32人となりました。今年度の応募作品数は過去2番目に多く、幅広い年代の方にご参加いただきました。今後も、多くの方々に文芸創作活動に取り組んで

高知県芸術祭執行委員会 委員長 新納 朋代

いただけるよう、より一層広報等に力を入れていきたいと思ひます。

本報告書では、第74回高知県芸術祭の成果をまとめております。現代の芸術文化事業は個人の趣味としての鑑賞機会の提供のみならず、まちづくりや観光、教育、国際交流、産業その他分野との緊密な連携がなされています。こうした状況を背景に、「芸術祭」のあり方はまだまだ検討の余地があるといえるでしょう。“進化し続ける芸術祭”を目指し、新しいアイデアも取り入れていきたいと思ひておりますので、今後ともご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

*事業数・参加人数

- ◆主催事業／
 - ・プレイベント
「土佐女子中学高等学校書道部パフォーマンス」…205人
 - ・オープニングイベント
「街角アートステージ高知・香南ジュニアオーケストラ合同コンサート」…256人
 - ・メインイベント
「歴史的ピアノとチェロが奏でる19世紀の響きDuo Yamaneコンサート」…500人(9/14)・500人(9/15)
「ミュージックホリデーin佐川」…310人
「げいぶん寄席 笑楽座in弁天座」…200人
 - ・プチイベント「和楽器コンサート」…147人
 - ・「第53回高知県文芸賞」…788人(2,029作品)
- ◆助成事業／「KOCHI ART PROJECTS 2024」
…14事業実施・3,480人
- ◆共催行事／22行事実施・50,372人
- ◆協賛行事／39行事実施(※1行事中止)・58,194人



第 74 回 高知県芸術祭 概要

◆芸術祭とは

広く県民が芸術に親しみ、また高知の文化芸術の魅力を発信、再発見する事業

◆高知県芸術祭の方針

- ①子どもから大人まで広く県民が生涯にわたって様々な文化芸術に親しむ機会を創出する
- ②地域文化の創造と伝承を支援し、地域活力を創出する
- ③県内各地域に賑わいを創出し、活力ある高知県を目指す



開催期間／令和6年9月14 日(土)～12月15 日(日)

主 催／高知県・公益財団法人高知県文化財団

主 管／高知県芸術祭執行委員会

後 援／NHK 高知放送局・高知新聞社・RKC 高知放送・KUTV テレビ高知・KSS さんさんテレビ・KCB 高知ケーブルテレビ・エフエム高知

令和 6 年度 第 74 回 高知県芸術祭 日程表

4 月 26 日	「KOCHI ART PROJECTS 2024」 募集チラシ・要項 発送 (締切: 5月31日)
	芸術祭参加団体募集のご案内 発送 (締切:8月26日※ガイドブックへの掲載を希望する場合は7月8日)
6 月 14 日	第1回高知県芸術祭執行委員会およびKAP 審査会 (高知県立美術館・2階会議室) <議題>令和5年度文化芸術振興ビジョン推進事業等委託業務収支決算について <報告事項>芸術祭の進捗状況について※執行委員会終了後、KAP 一次審査会を開催
6 月 24 日	第53回高知県文芸賞作品募集チラシ 発送 (締切:9月30日)
8 月 16 日	芸術祭公式ガイドブックおよびポスター 発送
8 月 18 日	プレイベント「土佐女子中学高等学校書道部パフォーマンス」
9 月 3 日	第2回高知県芸術祭執行委員会 (高知県立美術館・2階会議室) <議題> (1) 助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2024」について 視察の割振り・報告について (2) 参加行事について (共催・協賛行事) (3) 芸術祭の進捗状況について メインイベント等について・広報について・今後の日程について
9 月 14 日	第74回高知県芸術祭開幕 オープニングイベント「街角アートステージ 高知・香南ジュニアオーケストラ合同コンサート」(大橋通り商店街) メインイベント「歴史的ピアノが奏でる19世紀の響き Duo Yamane コンサート」※9月15日迄
10 月 13 日	赤野獅子舞 (パンフレット作成) (KAP助成事業)
10 月 19 日	第53回高知県文芸賞審査会 (高知県立美術館・2 階会議室等) ※10月27日迄 (内、5日間)
11 月 1 日	プチイベント「和楽器コンサート」
11 月 2 日	いしはらアートヴィレッジ2024 (KAP助成事業) 土佐山田・あーとリンクvol.4 (KAP助成事業) ※11月10日迄 月灘ART PROJECT 2024 (KAP助成事業) ※12月1日迄

11 月 10 日	日日夜々 Reading theater in四万十「私の帰る処 → 幸福な夢」(KAP助成事業)
11 月 16 日	風のカレンダー2025原画展 (KAP助成事業) ※11月17日迄
11 月 17 日	中土佐一現代美術プログラム「上ル。」(KAP助成事業) ※11月30日迄
11 月 23 日	メインイベント「ミュージックホリデー in 佐川」 南極絵巻-旅の最終漂着地- (KAP助成事業) ※12月15日迄
11 月 24 日	メインイベント「げいぶん寄席 笑楽座 in 弁天座」
12 月 1 日	歩屋の20周年記念イベント (KAP助成事業) ※12月 8 日迄
12 月 7 日	出会いをいきるアート展 (KAP助成事業) ※12月15日迄
12 月 13 日	劇団coyote高知演劇公演【さらば汚れた世界よ～夜が恋して夜が明ける～】(KAP助成事業) ※12月15日迄
12 月 14 日	第1 回とさ冬祭りしだれ櫻と陶芸と野点 (KAP助成事業) 「伝える」文化祭KUROSHIO (KAP助成事業) ※12月15日迄 ありがとう70年!大心劇場映画祭 (KAP助成事業) ※12月15日迄
12 月 15 日	第53回高知県文芸賞表彰式 (高知県立文学館ホール) 第74回高知県芸術祭閉幕

令 和 7 年

1 月 26 日 助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2024」事業報告会 (高知県立美術館・1 階講義室)

3 月 26 日 第 3 回高知県芸術祭執行委員会 (高知県立美術館・2 階会議室) ※予定

注) KAP … KOCHI ART PROJECTS

●メインイベントチラシ



●プチイベントチラシ



差を縮めるよう取り組んできた。この結果、当イベントを楽しみにする声も地域住民から聞こえてくるようになるなど、取り組みを開始する前と比べ、芸術文化に対する意識が芽生えてきつつあると感じるようになった。また、今年は公演に落語を加えるなど芸術文化の対象を広げる試みを行ったことで、地域における新たな層を確保することができた。事業の継続実施によって、地域における文化振興が着実に進んでいると感じている。(助成額：252,980円)

土佐山田・あーとリンクvol.4

主催団体：土佐山田・あーとリンク実行委員会
開催期間：令和6年11月2日(土)～11月10日(日)
会 場：ギャラリー樹下の舎(香美市土佐山田町東本町5-2-11)、かふえ&ぎやらりーぐらんま(香美市土佐山田町東本町1-4-4)、香美市立美術館(香美市土佐山田町262-1)、等
入場者数：延べ1,144人(香美市立美術館358人/かふえ&ぎやらりーぐらんま272人/ギャラリー樹下の舎342人/hako-hako172人)、いどばた・おはなし会20人、スタンプラリー参加者159人、のきさき美術館鑑賞者多数



●事業の内容

4回目を迎える「土佐山田・あーとリンク」では、恒例の3会場での同時展示会と景品付きスタンプラリー、hako-hakoでの関連展示会、「まちじゅうおでかけ図書館」に加え、初の試みとなる「のきさき美術館」を企画した。「のきさき美術館」は商店や空き店舗、空き施設のガラス面を使った展示企画で、10か所・19作家が参加してまちを彩った。また、香美市の指定文化財である「公儀の井戸」をイベント中の休憩スポットとして詠え、11月3日(日・祝)には「いどばた・おはなし会」を開催。約20名が参加した。

●成果・反響(お客様からの感想など)

メイン3会場の展示会と関連企画のhako-hakoでの展示はそれぞれ充実した内容で来場者に満足いただいた。新企画の「のきさき美術館」は外から自由に作品鑑賞できるスタイルで、来場者のまちあるきの充実度を高めたと同時に、町ゆく人の関心を得ることができた。

●助成を受けたことによってできたこと

新企画「のきさき美術館」によって、空き店舗や商店、文化財にアプローチすることができ、新たな作家との出会いや本事業への共感を得る機会となった。市の指定文化財である「公儀の井戸」では、オリジナル展示台や椅子を配置し、情報発信拠点兼休憩スポットや「いどばた・おはなし会」の会場として活用することができた。(助成額：26万円)

月灘 ART PROJECT 2024

主催団体：AGアートグループ「お月さん桃色」
開催期間：令和6年11月2日(土)～12月1日(日)
会 場：大月町文化教育交流拠点COSA(幡多郡大月町小才角350)
入場者数：189人



●事業の内容

溝渕泰史洋画展・溝渕博彦写真・立体展、オープニングコンサート(出演：ミルクティー)、木造ドーム組立住民workshop、小才角漁村集落の歴史文化地図お宝workshop、小才角漁村集落のお宝探検ガイドツアー、月灘の文化遺産と地域活性化講演会、クロージングコンサート(出演：COPAN)

●成果・反響(お客様からの感想など)

地元出身の兄弟芸術家による素晴らしい写真と絵画を鑑賞でき、とても感動しました。身近にあり気づかなかった価値や、その見方を教えていただいたことで、大変勉強になりました。芸術や講演、音楽が織り交ぜられた充実したプログラムで、なかでもAIとのコラボレーションによる講演は、分かりやすく、非常に興味深いものでした。歴史文化を掘り起こし、再発見することは、未来を切り開ききっかけになると改めて感じます。

●助成を受けたことによってできたこと

事業内容のすべてを開催できた。(助成額：30万円)

日時刻々 Reading theater in 四万十「私の帰る処 → 幸福な夢」

主催団体：日時刻々Reading theater in 四万十を上演する会
開催期間：令和6年11月10日(日)
会 場：四万十市総合文化センター しまんとびありぐるホール(四万十市右山五月町7番7号)
入場者数：127人



●事業の内容

四万十市出身の劇作家・演出家である、いしざわみなの主宰する日時刻々のリーディング公演。短編の代表作2編を一つの作品として構成・演出したもの。4月に高知市で上演した演目であるが、何倍もの広さを持つりぐるホールに合わせて演出を一新、スケールの大きい世界観の舞台となった。

●成果・反響(お客様からの感想など)

市民全体として観劇経験が少ないと聞き不安もあったが、刺激的な楽しい体験だった、また観たいという感想を沢山いただいた。

●助成を受けたことによってできたこと

- ・本年度落成したばかりのしまんとびあでの公演が可能になったことで、高知市エリアではない、四万十市エリアの皆さんに作品を届けることができた。
- ・交通手段として飛行機の利用が可能となった。(高速バスの利用を検討していた)
- ・東京在住の舞台監督にも仕事を依頼できた。
- ・高知新聞へのチラシ折込みができた。
- ・出演者・スタッフが一人一部屋利用で宿泊ができた。(助成額：30万円)

風のカレンダー 2025 原画展

主催団体：合同会社 風
開催期間：令和6年11月16日(土)～11月17日(日)
会 場：高知蔦屋書店(高知市南御座6-10)
入場者数：約200人





●事業の内容

高知県内12の障害者就労支援事業所や特別支援学校の方たちが自由に描いた数字や曜日の原画を展示しました。各施設の利用者が制作した原画を施設ごとに展示し、障害のある方のゆたかな独創性や制作することへ喜びを伝えると共に、施設や障がいのある人への親しみがもてるようなきっかけをつくりたいと考え、企画した。

●成果・反響（お客様からの感想など）

「アイディアが面白い」「数字と曜日のデザインが全部ひとつひとつ違うんですね!」「クスッと笑えたり、これは何の数字だろう?と考えさせられるものもあって、自由ですごくいいです」など、見てくれた方が皆笑顔になっていることが印象的だった。医療や福祉関係者の方が「入院している子どもたちと一緒にやれないだろうか?」「子供の放課後デイサービスの施設に勤めているが、来年のカレンダー制作に参加したい」と声をかけてくれた。障害のある方の自由な発想やユニークさ、面白さが届いているようだった。参加施設や障害のある方のことを知ってもらい、親しみを持てるようなきっかけになればと思う。そして「障害」とは?と考えてもらえるようなきっかけになればと思っている。

●助成を受けたことによってできたこと

高知蔦屋書店というさまざまな年代の方や色々な考えを持つ人が集まる場所で展示することで、福祉や障害について、障害のある方とのものづくりについて等、多くの方に知っていただきたいと思い企画した。高知蔦屋書店の会場費を助成金で出していただけただけことがとてもありがたかった。(助成額:30万円)

中土佐—現代美術プログラム「上ル。」

主催団体：中土佐—現代美術プログラム「上ル。」

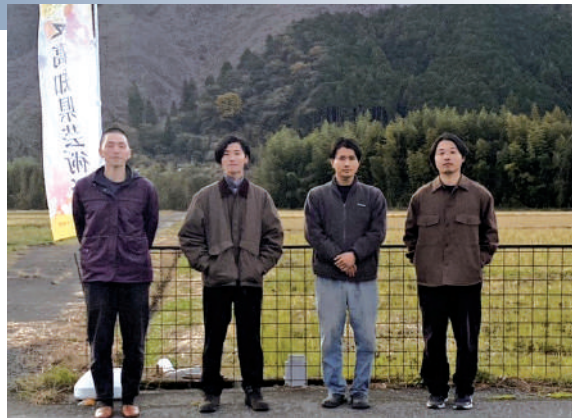
実行委員会

開催期間：令和6年11月17日(日)～11月30日(土)

会場：旧西岡家ギャラリー

(高岡郡中土佐町大野見久万秋245)

入場者数：215人



●事業の内容

中土佐町の大野見地区で現代美術プログラム「上ル。」を開催しました。本プログラムでは、大野見出身の作家や大野見へ移住した作家などが各々「川」という概念をテーマとして作品を展開しました。川をリニアな視点で考えるのではなく、逆の視点、あるいは“わたしたちの視点”から捉えなおしながら、制作・展示を行いました。

●成果・反響（お客様からの感想など）

出品をした作家、ライブをした今石康が大野見での経験をもとに新作ができた。また地域住民の方々が喜んでくれた。例えば、高橋の作品では、今は使われなくなったタバコ小屋を使用しているため、当時の会場の状況を知っている方が会場でお話をしてくれた。さらに一度来た大野見に住んでいる鑑賞者が知人を連れてきてくれたりと展示が地域で数珠つなぎのように広がっていった。美術関係者も多く来た。遠方は佐賀から美術を学んでいる学生が来場してくれた。

●助成を受けたことによってできたこと

ゲストを2名呼べた(福岡県、北海道)。このことにより、展示が大野見「だけ」に自閉せずに、大野見「から」と広がりがある展示となった。また図録の質の向上と、アーカイヴ作成においても、助成をいただいたことで妥協をせずに出来るようになった。(助成額:30万円)

南極絵巻—旅の最終漂着地—

主催団体：ササオカミホ

開催期間：令和6年11月23日(土・祝)～12月15日(日)

会場：ビオスおおがた

(幡多郡黒潮町浮鞭953-1)と砂浜

入場者数：約250人



●事業の内容

5年かけて南極を旅し、日本各地を旅した南極絵巻が土佐凧作品となり、11月23日に黒潮町の砂浜に舞った。オープニングでは、5年前に作家と一緒に南極航海の旅に出たサイエンティストを招いてのサイエンストークを砂浜で実施し、参加者が見守る中、同じ砂浜にて凧作品を揚げた。また、販売は叶わなかったが(保健所の判断)、料理人が考案してくれた南極の氷を使ったスペシャルドリンクと黒潮町のラッキョウを使った焼き菓子のお披露目も行った。オープニングの3日前には黒潮町の学童*で土佐凧作り教室を実施し、作品の展示期間中に砂浜で子供達の凧も揚げる日を設けてみんなで砂浜と風を楽しんだ。11月24日～12月15日までビオスおおがた情報館での作品展示を行った。

●成果・反響（お客様からの感想など）

実際に南極に行った人から科学の話など聞けてとても興味深かった。南極の氷のスペシャルドリンクを飲んでみたかった。黒潮町の砂浜から海の向こうの南極を想像してみた。大きな土佐凧の作品がダンスするように舞う姿はとても迫力あった。作品が地面に落ちた時に大きく壊れたが、作品の供養という意味ではとても良い見せ方の一つだと感じた。こんな展覧会のはじめてみた。とても面白かった。

●助成を受けたことによってできたこと

展示会場となる黒潮町の子供達に講師を招いて土佐凧作り教室を開催できた。料理人に南極と黒潮町の素材を使ったドリンクと菓子を考案していただいた。サイエンティストをゲストに招いて一般の方に科学研究の現場に関するリアルな対話をするのができた。現地に滞在しながら準備ができたことで、地元の方と対話する機会も生まれ満足いく展覧会となった。(助成額:30万円) ※学童・放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)

歩屋の20周年記念イベント

主催団体：アジア食堂 歩屋

開催期間：令和6年12月1日(日)～12月8日(日)

会場：アジア食堂 歩屋(南国市岡豊町江村47)

入場者数：12月1日:26人 / 12月8日:75人



●事業の内容

12月1日:音楽演奏に合わせてライブペインティング

12月1日～12月8日:絵の展示

12月8日:きむらとしろうじんじん野点パフォーマンス/歩屋演芸

上記の各種イベントを「歩屋の20周年記念イベント」として開催しました。

●成果・反響（お客様からの感想など）

・12月1日のライブペイントは「小さな店ながら贅沢な時間になった」「間近で迫力のある作品を楽しめた!」など、たくさんの方から感想をいただきました。

・12月8日の野点は「県内で様々なイベントがあったので、ゆったり楽しむ事ができた!」「絵付けができてとても楽しかった」というお声がけをいただきました。

●助成を受けたことによってできたこと

助成金なしでは予算的に実現できなかったアーティストのパフォーマンスを地域の方々やお世話になっている方々に体感してもらえました。(助成額：30万円)

出会いをいきるアート展

主催団体： 一般社団法人 清水サーバ	会 場： 大津ギャラリー(土佐清水市大津795)、
開催期間： 令和6年12月7日(土)～12月15日(日)	明道工房(土佐清水市津呂125)、
入場者数： 20人(大津ギャラリー)、7人(明道工房)、	ショッピングセンター プラザ・パル
221人(ショッピングセンター プラザ・パル)	(土佐清水市天神町1-1)

●事業の内容

抽象絵画体験教室、10月3日：大津集落・集会場、11月14日、15日：明道工房、11月30日：土佐清水市産業祭にて、市民40名を定員として、自由に絵を描く楽しさを体験するための抽象絵画教室を開講した。

いきるアート展は、12月7日、8日：大津ギャラリー、12月9日、10日：明道工房、12月14日、15日：プラザ・パルで抽象絵画体験教室の作品展示会を開催、後援のショッピングセンターの企画で地元のフリーマーケットを同時開催するなど、協働して盛り上げ、観覧者を増やすための工夫も行なった。

●成果・反響(お客様からの感想など)

抽象絵画体験教室の募集に対して、大津集落4名、明道工房6名の参加があり、市街地以外の地域でもアート活動に関心を持っている潜在的な人たちに創作活動の機会の提供ができた。対照的に、市街地で開催され9,998人の来場者があった産業祭では、地元の人たちは体験教室を覗いていくものの自らは描こうとせず、移住者や市外からの来場者ばかりが参加する状況が見られた。また、親子の場合、親は描かず子どもに描かせる傾向が殆どであり、みんなでアートするという目的からは、「興味はあるがやらない人」への対応という課題が残った。

●助成を受けたことによってできたこと

前年度から引き続いて「抽象絵画教室」を開催した大津集落では、参加者4名中、3名が新規の参加であり、集落住民の孫や姪であるなど、地域の人たちから自分の関係者へアート体験を広げようとする機運が生まれた。土佐清水市の人口ほどの来場者があった産業祭での絵画教室や、ショッピングセンターでの展示会により、大勢の地域住民へ地域内で生み出されるアートに触れる機会を提供できた。(助成額：30万円)



劇団coyote 高知演劇公演【さらば汚れた世界よ～夜さ恋して夜が明ける～】

主催団体： 劇団coyote
開催期間： 令和6年12月13日(金)～12月15日(日)
会 場： 蛸蔵(高知市南金田28)
入場者数： 145人

●事業の内容

劇団coyoteによる高知演劇公演です。香南市市民参加演劇に参加された方々と札幌から参加する劇団coyoteナガムツ、東京からSARAIを招き、音楽には高知出身の矢野絢子、嶋崎史香、ナカヒラミキヒトの生演奏共演で行われた現代劇。これからの演劇は市民参加型になるべきではないかという可能性に挑戦しました。



●成果・反響(お客様からの感想など)

土佐弁のセリフがかえって新鮮でした。故郷を感じた。母親に会いたくなりました。音楽が素晴らしい。日常を忘れ没頭しました。よくわからないけど心に響いた。また観に来たい。中華屋のおばちゃんが面白かった。

●助成を受けたことによってできたこと

2024年2月に出会った市民劇に参加したキャスト達が、また次の舞台に立ちたいという希望が叶いました。演劇では珍しい生演奏もくわえられ、出演者にとっても特別な体験になりました。札幌、東京からゲストを呼べたのも公演に力をくわえられたかと思います。(助成額：30万円)

第1回とさ冬祭り しだれ櫻と陶芸と野点

主催団体： 特定非営利活動法人トサシカケNITARI
開催期間： 令和6年12月14日(土)
会 場： 大久保家のしだれ櫻の下
(土佐市高岡町乙172-4)
入場者数： 約80人

●事業の内容

きむらとしろうじんじん氏・もりたうつわ製作所によるうつわの絵付け。

お茶碗作り(所要時間1時間以上)、お抹茶

きむら：現場で絵付けをし、窯付移動車にて焼き上げ、お渡し。

もりた：現場で絵付けをし、後日もりたうつわ製作所にて焼き上げ、送付or受取。

●成果・反響(お客様からの感想など)

普段関わることのないアーティストの方と気軽に話ができて貴重な機会になった。昨年体験したかったが、すでに定員オーバーで泣く泣く諦めたので、今年体験できて本当に嬉しいです。思い通りの焼き上がりにならないところも含めて本当に楽しい。商店街にこうやって色んな方が集まり、ワイワイしているだけで嬉しい。

●助成を受けたことによってできたこと

きむらとしろうじんじん氏の野点は収益を取る方法がなく、自治体や文化施設など独自の予算があるところしか招聘するのが難しいが、今回はKAPの助成金を受けた事で招聘することが可能となった。また土佐市でアトリエを持って活動しているもりたうつわ製作所さんともコラボする事もでき、地元アーティストの紹介にも尽力できた。とさ冬祭りを立ち上げる事ができた。今後も継続できるよう頑張りたい。(助成額：30万円)



「伝える」文化祭KUROSHIO

主催団体： 「伝える」文化祭KUROSHIO 実行委員会
開催期間： 令和6年12月14日(土)～12月15日(日)
会 場： 黒潮町立伊与喜小学校(幡多郡黒潮町伊與喜78)
入場者数： 約300人

●事業の内容

2023年4月に休校となった黒潮町立伊与喜小学校の校舎を会場に、文化祭を開催。図書室では、四万十市出身の歌人・岡本真帆さんらを招いた短歌イベントを行い、全国から公募した短歌作品の中から、「第一回黒潮短歌賞」を選出。体育館では、町内外の団体による音楽やダンスのステージと、子どもたちの紙作品や、旧佐賀町の写真、地域の人





たちの様々な作品を展示。校舎内の各教室と渡り廊下では、ワークショップや飲食・雑貨等を出品。

●成果・反響(お客様からの感想など)

町内外からさまざまな年代の来場者が集まり、アンケートでは以下のような声がありました。
「出し物が多かった、あいさつしてくれた(10代・四万十市)」
「学校も地域も喜んでる。あわてることなくゆっくり見て話もできる。良い時間をもらいました(50代・黒潮町佐賀)」
「今回、初めてという点で、普段会わない、会えない方とも交流することができ、つながることができました。今後もこういうイベントがあればいいと思いました。(40代・四万十市)」
「卒業生の写真の展示 本当によくやってくれました ありがとう 涙を流してみました。(70代)」

●助成を受けたことによってできたこと

全国の若者に人気のある歌人を招いて短歌イベントを行えたことで、ローカルイベントでありながらも、遠くの方にSNSで気軽に参加してもらうこともできました。黒潮町を知らなかった応募者の方々からも「次はぜひ行きたいです」という声が聞かれました。また、地域の伝統ある短歌会の皆さんにも、現代短歌や、若い世代と交流する機会を楽しんでもらう機会になりました。そして、チラシを大量に作り、町内の保育所・小中学校・高校の全生徒に配布することができたため、多くの子どもたちに来場してもらうことができました。(助成額:196,545円)

ありがとう70年！大心劇場映画祭

主催団体：大心劇場映画祭実行委員会

開催期間：令和6年12月14日(土)～12月15日(日)

会 場：大心劇場(安芸郡安田町内京坊992-1)

入場者数：110人

●事業の内容

2024年で開館70年を迎えた“お山の映画館”大心劇場。地元だけでなく全国各地、さらには海外からもファンが集う風情あふれる映画館で、ファンによるファンのための映画祭を開催した。作品は大心劇場を舞台にした、あるいはロケ地として使われるなど、関係の深い映画(製作順に『幕末に生きる 中岡慎太郎』、『deep in』、『よさこい』『へんろ』、『旅する映写機』、『追い風ヨーソロ!』、『勝手に流れた星だから』)をリストアップした。

●成果・反響(お客様からの感想など)

観客の反応もさることながら、映画関係者や来場しなかった人たちからの反響が大きかった。配給料の受け取りを辞退されることは想定していなかったこと。また、NHKの密着取材があり、放映の当日には電話やメッセージが殺到、「いいことやゆう、これからも頼みます」というものが多かった。一方、上映作品で過去の映像が映し出されることで、故人が映り込んでいた場面があり、その生前の姿に涙を見せる人もいた。

●助成を受けたことによってできたこと

助成がなければ、これほどの規模での実施は不可能だった。泣いても笑っても「辺鄙」「時代遅れ」などと揶揄されかねない映画館。規模を小さくすれば比例して集客も減り、実施効果も悪いものとなっていたかもしれない。(助成額:30万円)



助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2024」事業報告会

1.期 日 令和7年1月26日(日) 13時00分～16時40分

2.場 所 高知県立美術館1階講義室(高知市高須353-2)

3.報告事業団体

AGアートグループ「お月さん桃色」/ササオカミホ/一般社団法人 清水サーバ/大心劇場映画祭実行委員会/合同会社 風/
赤野獅子舞保存会/中土佐一現代美術プログラム「上ル。」実行委員会/アジア食堂 歩屋/
日時刻々 Reading theater in 四万十を上演する会 /劇団coyote/いしはらの里協議会/
「伝える」文化祭KUROSHIO実行委員会/土佐山田・あーとリンク実行委員会/特定非営利活動法人トサシカケNITARI

4.次 第

開会
あいさつ 高知県芸術祭執行委員長
助成事業報告
交流会
総括
閉会



交流会の様子

執行委員からのコメント

■赤野獅子舞(パンフレット制作)

3か年構想を立て、赤野獅子舞を通じて地域を存続させていくという明確なビジョンを持ち、熱量を持って行動を起こしている点、その熱意が赤野に留まらず、他の地域の獅子舞復活の種火になっている点、長期的なスパンで地域の将来を見据えている点、まさにKAP助成事業にふさわしい事業だと感じました。

赤野獅子舞保存会が真正面から取り組んでいる課題は、高知県で暮らす誰にとっても無関係ではないと思います。このような活動を、多くの人がそれぞれの立場でできる事をして関わっていく事で、「地域×アート」で少しずつでも豊かな地域を育んでいける力になると考えます。

■いしはらアートヴィレッジ2024

報告を聞いて、地域の有志が一丸となってイベントを盛り上げていることが理解できました。

こんな静かで山深い場所でクラシック音楽?と思いますが、このギャップが面白い。今年度は、寄席も合わせて開催しましたので、幅広い年齢層の方が集まり、昼食を挟んで芸術・文化三昧の一日でした。コンスタントに開くのはハードルが高いでしょうが、年に1回程度、集中してイベントを盛り上げると、地域住民の絆も深まり、集まった多くの人が幸せな気分になります。まさに芸術・文化の力、地域住民の力、地域資源の力を実感する催しでした。

KAPの原点である地域資源を生かして、芸術文化を多くの人に届けるということのお手本のようなイベント。これからは是非続けて行って欲しいです。

■土佐山田・あーとリンクvol.4

最終日にはメイン3会場でのギャラリートークを開催している点は良かったです。ギャラリー樹下の舎で開催していた尾崎浅子氏(消しゴム版画)はワークショップも開催され、作品作りを通した多世代交流ができていました。

作品のレベルが高く十分な見ごたえがあったことは来場者の満足度を上げることに成功していたと思います。

このレベルのアーティストが展覧会をすることで、様々な表現者との交流を促進する企画も可能になると感じました。例えば、コーディネートが必要になりますが、作家同士の鼎談も聞きごたえがあると思います。

これだけ充実した内容を維持するためには企画者・有志の負担は大きく、地元自治体・行政側のサポートがあってほしいと願います。自治体との連携や学校と連携することで更に大きなイベントへと変容することもあり得ます。規模を大きくすることが目的ではないですが、そのポテンシャルは十分にあります。

■月灘 ART PROJECT 2024

既存施設を活用した展示や、それを通じた地元の歴史・資産の喚起など、多面的で戦略的な企画だと感じました。

地元住民の参加も多く見受けられ、広報などを積極的に行ったように感じました。

都市部から離れた場所なので容易ではないと思いますが、若年層や次世代への継続に繋がられるような発展または展開を期



待したいと感じました。

■日日夜々Reading theater in四万十「私の帰る処 → 幸福な夢」

1 か所で台本を読むわけではなく動きもするが、演技はせず、結局は台本を読んでいるだけなのに、始まって数分もしないうちに会場全体がその世界に引きずり込まれていた。

初めてリーディングを見たであろう多くの人は、きっと他の舞台作品への興味も抱いたと思われる。また、こうして知らなかった世界を開いてくれたことで、市民の皆さんは改めて新ホールが出来たことを喜び、誇りに思っているに違いない。

■風のカレンダー2025 原画展

多くの方が目を留めやすい場所での展示は、「障がいのある人の独創性やエネルギー、制作の喜びや楽しさを多くの人に知ってもらう機会にしたい」という目標達成にふさわしい場所であったと思う。

原画展を開催することによって、制作の苦労や過程がよくわかり、活動への理解が深まるきっかけとなった。

■中土佐ー現代美術プログラム「上ル。」

そこにある自然を再現することで、自然の美しさへの気付きがある。

作品を見終えたら、いつも見慣れた日常の場が、アート作品のように見えるかもしれない。

若い人たちが、その楽しさを継続して発信していけば、これから厳しい時代を迎えるかもしれないこの国の、希望の光にもなるのではないか。

自然と共生していく暮らしをどんどん発信していきましょう。期待しています。

■南極絵巻ー旅の最終漂着地ー

南極で過ごすという得難い体験、気づきを、アートで表現、伝えるーという試みは、「何か」を伝える際の仲介役としてのアートの役割、多種多様な人々、考え方を包含できる可能性があるアートの柔軟さを理解されているからだと思います。

3 年かけて日本各地を巡回展示し、集大成として絵巻を土佐凧にし、大方の浜で凧あげするーという壮大なストーリーは、とても面白い試みだと感じました。集大成である大方の浜でのイベントは、一般の参加者をもう少し巻き込む形が取れると、さらによかったかもしれないという感想を持ちました。

■歩屋の20周年記念イベント

きむらとしろうじんじん氏が優しくお客さんに接することに加え、すぐくサービス精神旺盛で、苦痛を伴わず結構長時間現地にいられた。一方、じんじん氏ご本人はずっと立ちっぱなしで釜の世話や野点を行っており、相当な重労働だったものと思われる。

出来映えを想像しての絵付けと、仕上がりを待つ間の期待と不安が入り交じるワクワク感、思惑違いの結果と逆に意図していない偶然の産物としてのできあがりの効果など、陶芸(絵付け)の魅力に触れられて良かった。

皆満足して帰られたと思う。訪れた際、駐車場に案内してくれたのも良かった。

■出会いをいきるアート展

集落会場では少人数ではありましたが、10代の子どもたちに興味を持ってもらえるような意欲的な取り組みだと感じました。

産業祭会場では、こうした芸術や表現活動への小中学生の高い関心を感じました。

ブースの分かりにくさ・宣伝不足を感じましたので、改善があれば、より前向きな発展を期待できるのではないかと思います。

■劇団coyote高知演劇公演【さらば汚れた世界よ～夜さ恋して夜が明ける～】

今回でKAPの承認事業としては最終年かと思われるので、今後とも活動を継続し目標を達成するためにはより確かな組織作り、理解者の支援の輪を広げ確かなものにする必要があると思われる。その上で、より多くの地域で素晴らしい演劇公演を実施していただけることを希望する。変わらぬ意思力と想像力をもって。

■第1回とさ冬祭り しだれ桜と陶芸と野点

大久保家のしだれ桜実行委員会との協働が見えても良かったのではないのでしょうか。

しだれ桜のアピールは参加者に対して特段の工夫はなされていなかった。

茶碗づくりの参加時間は長時間であることから、商店街の街歩きポイントなどをフライヤーに盛り込んでも良かったのではないかな。

一見すると閑散とした商店街であるため街歩きを促すような工夫が必要ではないのでしょうか。

■「伝える」文化祭KUROSHIO

地域活動や休廃校利用のひとつのモデルにもなる企画だと思います。

更なる充実を期待します。その際、準備段階から積極的に地元の方々の参加を募るなど、継続に結びつく仕組み作りも重要だと思っています。

■ありがとう70年!大心劇場映画祭

地域で70年もの間、営々と活動してきた映画館を顕彰する催しだが、ただ単にその営みを称えるだけでなく、イベントの中身は意欲的で攻めたものであった。

大心劇場の今後の歩みに期待すると共に、この映画祭もさまざまな可能性を追求しながら継続していただきたい。

第 53 回 高知県文芸賞 概要

県民の皆さまの文化芸術活動を応援し、また、文化芸術を身近に感じていただくため、毎年秋に「高知県芸術祭」を開催しています。芸術祭の行事のひとつとして、県民の皆さまの文芸創作活動を応援する「文芸賞」を設けています。多くのご応募をお待ちしています。

◆募集部門

短編小説(1人1編)／詩(1人1編)／短歌(1人3首以内)／俳句(1人5句以内)／川柳(1人5句以内)
＊()内は応募できる作品数

◆賞

「高知県文芸賞」(各部門1名)
「高知県文芸奨励賞」(短編小説部門2名、他部門各5名)
表彰状と副賞が授与されます。その他、佳作が選出される場合もあります。

◆問い合わせ・応募先

〒781-8123 高知市高須353-2
(公財)高知県文化財団内「高知県芸術祭執行委員会事務局」
TEL:088-866-8013 FAX:088-866-8008
(平日9:00～17:00)

◆審査員

短編小説/片岡 真・米沢朝子・若江克己
詩/林 嗣夫・増田耕三・やまもとさいみ
短歌/梶田順子・田上悦子・山脇志津
俳句/植田紀子・田村乙女・橋田憲明
川柳/小笠原望・清水かおり・山岡陸宏
(敬称略・五十音順)

◆締切日

令和6年9月30日(月) 消印有効
くわしくは、高知県芸術祭公式ホームページをご覧ください。

● 応募状況と入選者数

	応募総数	応募人数	文芸賞	文芸奨励賞	佳作
短編小説	38編	38人	1	2	2
詩	61編	61人	1	5	5
短 歌	551首	275人	1	5	6
俳 句	803句	252人	1	4	9
川 柳	576句	162人	1	5	10
合 計	2,029作品	788人	5	21	32

表彰式

開催日: 令和6年12月15日(日)
会 場: 高知県立文学館ホール
※表彰式への出席は、文芸賞・文芸奨励賞受賞者



● 入選作品集



部 門	受賞名	氏名またはペンネーム	タイトル（ただし、短歌、俳句、川柳は作品）
短編小説	文芸賞	堀井 麻貴	夜の楽園
	文芸奨励賞	安藝友 知史	すてられないもの
		久尾 紗利奈	踊り子
	佳 作	黒河 光貴	トゥルルルル
詩	文芸賞	都築 悦子	不夜城の病舎
	文芸奨励賞	仲野 美恵子	嘘
		山田 草花	花を摘む日
		結城 理恵	ちょっとつらい話
		町猫	同窓会
		倉橋 孝彰	学びという構造物
	佳 作	古田 彩香	四季の風
		甫木 恵美	御厨人窟
		小島 章生	余韻置き場の恋
		栗山 文子	卒業証書
手島 快		この世界	
短 歌	文芸賞	土居 修	水切りを覚えて孫の夏終わる明日は都会のひとりとならむ
	文芸奨励賞	渡辺 俊平	核の危機キューバ以来の時来る世界がこれを止めねばならぬ
		坂東 千里	電話越し耳そばだてる友人のお腹の中の命の音に
		谷口 梨夏	あじさいに雨ぼつぼつと音がするかたつむりにも雨がひとつぶ
		山下 朔弥	球場にカキーーンと鳴り響くその一音で僕は泣いた
		鍋谷 ひかり	母とけんか口きかないが同じ部屋ともに見つめるルンパの動き
	佳 作	川上 理恵	雲湧ける峠の道を越えて来ぬ軽トラ移動図書館の夏
		坂山 智悠	弟が母の手つなぎはなさないほんととはぼくもつなぎたいのに
		竹村 咲子	帰化するか祖国日本へ還るかと十歳の心を母聴きましし
		尾崎 淳	奪われし六十年は還らずも冤罪はれて秋空たかし
		内山 輝之	生徒らの三十一文字の夏休み花火よさこい浴衣宿題
	吉野 ひな	にごりない魚いっぱいだから好き私のいやしに淀の青さ	
俳 句	文芸賞	西崎 さやか	横笛のかけ合ひとり神楽果つ
	文芸奨励賞	胡南	サイダーの泡の向こうの平和像
		徳弘 賀年子	夏終る青い絵の具と昆虫記
		徳永 逸夫	秋風や五分足らずの渡し船
		中井 紘希	あさがおがぼくより先に起きている
	佳 作	山内 一美	むき出しの解体ビルや大西日
		澤村 正彦	筋雲は神の旅せし名残とも
		山本 千秋	溝浚へ終へて老後の話など
		山本 敏子	澄む水の中にたしかな風の音
		山崎 鈴子	一人居に家族のごとく燕来る
		中森 鶴子	百歳の父は兵隊雲の峰
		下元 陽斗	たんぼばや飛びゆく命大切に
武森 結菜		春風はみんな動かすしれいとう	
橋本 美裕	天の川貴方も空を見えていますか		
川 柳	文芸賞	富士田 三郎	ブルーシートの海で軍手の紐を解く
	文芸奨励賞	藤村 るみ	かぎかって外せばもっと飛べたのに
		だい なつこ	Noと言うつよさが欲しい雲の峰
		徳永 逸夫	白黒をつけてぷつぷり切れた糸
		黒岩 せん子	旅ひとり余生の貨車を組替える
		中平 瀬奈	夏の夜力レーの中に夏がある
	佳 作	岡林 裕子	コスモスはあれもこれも風ににする
		明神 永子	ローマ字のQはおきやんで空虚です
		橋田 綾子	足跡が曲がったままでついてくる
		織田 裕一	坂道のポストに深い森がある
		大野 充彦	開かれた空の彼方にガザの死者
		辻内 次根	どの音もみな着信と聞いて午後
		ますだ じゅんこ	さわやかに運命線の立ちあがる
		宇賀 祐子	コロコロと地球儀笑ったのはいつ
小笠原 登		決断に心の点滴欲しくなる	
武森 勇翔	秋の風すすきの穂まで部下にする		

プレイベント「土佐女子中学高等学校書道部パフォーマンス」

開 催 日： 令和6年8月18日（日）
出 演： 土佐女子中学高等学校書道部
会 場： 帯屋町2丁目1-23 旧セントラル帯屋町店前
大黒久美子（司会）
来 場 者： 205人



芸術祭のPRを目的とし、プレイベントとして土佐女子中学高等学校書道部の生徒による書道パフォーマンスを開催しました。

1枚目は「剛毅果断 夢に向かい突き進め」、2枚目は「芸術への想いを開花させよ」など、“芸術祭”をテーマに生徒たちが考えた力強い言葉が並ぶ作品となりました。また、大きな書とは別にパネルを使用したり、カラフルな色を使って書き上げたりと、観客を楽しませる工夫がされていました。

パフォーマンスの感想を聞かれると、部長の大杉さんは「時間ギリギリまで練習を行っていたので、こうして無事、2つの作品が並び成功という形で終えられたのは大変嬉しいですよ。」と答えました。

会場を訪れた人々からは、BGMに合わせた手拍子や大きな拍手が送られ、大盛況のうちにイベントは終了しました。両作品は芸術祭開幕の9月14日から2か月間、旧セントラル帯屋町店前に掲げられました。



オープニングイベント「街角アートステージ 高知・香南ジュニアオーケストラ合同コンサート」

開催日： 令和6年9月14日（土）
会場： 大橋通り商店街
出演： 高知ジュニアオーケストラ、香南ジュニアオーケストラ
来場者： 256人

高知県芸術祭の開催を記念し、オープニングイベントとして高知・香南ジュニアオーケストラによる合同コンサートが大橋通り商店街で行いました。普段はそれぞれの地域で演奏を行っていますが、今回は合同での演奏となります。

まずは高知ジュニアオーケストラの皆さんにより、「シンコペーテッド・クロック」「アンダンテ・フェスティーボ」の2曲を演奏していただきました。続いて香南ジュニアオーケストラの皆さんが、「ドレミの歌」「リバーダンス」の2曲を演奏してくださいました。

最後に高知・香南ジュニアオーケストラの全員で、「フィドル・ファドル」を演奏しました。子供たちの伸びやかな演奏により、観客も楽しんで音楽に触れることが出来ました。



メインイベント「歴史的ピアノとチェロが奏でる 19世紀の響き Duo Yamane コンサート」

開催日： 令和6年9月14日（土）・15日（日）
会場： 高知県立県民文化ホール（グリーン）
出演： 山根風仁（チェリスト）・山根友紀（ピアニスト）
来場者： 14日500人・15日500人



高知県出身のチェリスト・山根風仁さんと友紀さんご夫妻による、チェロとピアノのデュオコンサートを2日間の日程で行いました。

今回のコンサートは、使用楽器に1845年製のピアノを特別にお借りしての演奏となりました。また、チェロも1840年-1850年頃に製作されたもので、どちらも大変貴重な楽器です。私達が普段目にはしている黒いグランドピアノと違い、深みのある音を奏でる歴史的ピアノと、ヒストリカル・チェロ奏者でもある山根風仁さんの演奏技法により、19世紀の音色を体感することができました。

両公演とも観覧に多数のご応募をいただき、満席となりました。また、今回の公演では演奏の合間に、山根さんご夫妻による歴史的ピアノとチェロについての説明の時間もふんだんに取っていただき、曲を聴くだけでなく、演奏している楽器についての知識も身につけられるコンサートとなりました。

演奏曲目はフランツ・リストの「愛の夢」やフェリックス・メンデルスゾーン「チェロ・ソナタ」など全6曲で、中には20分近い演奏時間の曲もありましたが、最後まで美しい音色に引き込まれ、あっという間に時間が過ぎていきました。

今回のコンサートで使用したピアノの所有者・山本宣夫様のご厚意により、14日には終演後、お客様が直接ピアノに触れることのできる時間をいただきました。また、15日はアンコール後のご披露曲を録画可とするなど、ご来場のお客様にも嬉しいサプライズをご用意いただきました。

アンケートでは「ピアノとチェロの優しい音色に癒やされた」「楽器について説明があって良かった」「優しいお二人と優しい音色で、とても素敵な時間だった」など、たくさんの感動のお声をいただくことができました。



プチイベント「和楽器コンサート」

開催日： 令和6年11月1日（金）
会場： イオンモール高知南コート（高知市泰南町1丁目4-8）
出演： 和waraku 楽（箏、十七弦、尺八）・高知工科大学和楽器同好会（琴）・田村花枝（三味線）、佐竹美佐（ピアノ）、北添紫光（パーカッション）・森田勝瀧（笛）、岡本紀久子（太鼓）
来場者： 147人



高知県芸術祭プチイベントと題して、イオンモール高知にて和楽器コンサートを行いました。

県内で活躍されている琴、尺八、三味線、笛などの演奏家4組による演奏は、それぞれの楽器の特徴的な音色が響き、伝統的な日本の楽器を使って奏でられる美しい音楽を楽しむことができるイベントとなりました。高知県の民謡やポップス曲まで、幅広いジャンルの曲が披露されました。



メインイベント「ミュージックホリデー in 佐川」

開催日： 令和6年11月23日（土・祝）
会場： 桜座（高岡郡佐川町甲346-1）
出演： こうちカポエイラセンター（ブラジル）・水帆&Sizuka（フランス）・グレイゲース（アイルランド）・岡栄（スコットランド）・木村ハルヨ、足立知謙（中国）・花山海（ブラジル）
来場者： 310人

高知県芸術祭のメインイベントの一つとして、佐川町の桜座にて「ミュージックホリデー in 佐川」を開催しました。

今回のイベントでは、「桜座に世界の音楽がやってきた!!」と銘打ち、フランス・アイルランド・スコットランド・中国など、様々な国の音楽を一度に堪能できるものとなりました。各出演者の持ち時間には、それぞれの演奏楽器や曲の紹介、国についての説明が行われ、音楽と共にその国に思いを馳せ、まるで世界を旅行しているような気分となりました。

また音楽だけでなく、ブラジルのカポエイラやサンバでは、激しい動きのダンスなど、思わず一緒に体が動き出しそうなパフォーマンスに注目が集まりました。

お越しいただいた地域の方々にも、「久しぶりに音楽に触れられて嬉しかった。（住んでいる）近くでイベントがあると、足を運びやすくて助かる」「色々な国の音楽が聴けて良かった。」など、喜んでいただけました。



メインイベント「げいぶん寄席 笑楽座 in 弁天座」

開催日： 令和6年11月24日（日）
会場： 弁天座（香南市赤岡町795番地）
出演： 司亭升楽（二代目）・悠遊亭のん気・TokyoTomo・花の家こなつ・粋亭ほれ太・浪漫亭タッチ
来場者： 200人

高知県芸術祭のメインイベントの一つとして、香南市の弁天座にて「げいぶん寄席 笑楽座 in 弁天座」を開催しました。

今回の寄席では、「笑いと驚き」をテーマとし、「土佐のお笑い話芸の会」メンバーを中心とした落語だけでなく、奇術を取り入れた寄席を行うことができました。

土佐弁バージョンの「火焰太鼓」の他、「ちりとてちん」、「堪忍袋」、「禁酒番屋」といった演目を、身振り手振りも含めて熱演してくださいました。語られる内容は、どれも情景が目に浮かび、思わず手を叩いて大笑いしてしまうほどの反響でした。

奇術では、絵の変わるカードや紙吹雪、切っても繋がるロープや、どんどん伸びるカラフルな紐を使い、お客様も巻き込んでの演目となりました。目の前で繰り広げられる不思議な光景に、驚きと感嘆の声が上がっていました。

終演後、お客様からは「久しぶりに大笑いした」「本格的な会場で落語に触れられてとても良かった」「たくさん笑って健康になれた気がする」など、うれしい声を多くいただきました。今後も続けて公演を行って欲しいとの声もいただき、来年度以降に向け、成果を実感できた公演となりました。





○共催行事

※ 記載内容は原則として事業実施報告書の記載に則しています。
※ 開催日（部門別）の順に掲載しています。※芸術祭開催期間中の参加者数を掲載しています。

部門名	行事名	主催団体	日 程
演 劇	ヨーロッパ企画第43回公演 「来てけつかるべき新世界」	高知県立県民文化ホール 共同企業体	11月2日(土)
舞踊・ダンス	マルコ・ダ・シウヴァ・フェレイラ 『CARCAÇA(カルカサ)』	高知県立美術館	11月20日(水)
美 術	第28回高知県障害者美術展 (スピリットアート)	高知県、高知県障害者美術展 実行委員会	10月11日(金)～10月21日(月)
	3館連携企画 生誕200年 河田小龍 ―激動期へのまなざし―	高知県立美術館	11月9日(土)～ 令和7年1月5日(日)
	石元泰博・コレクション展 「雪のシカゴ」	高知県立美術館	11月9日(土)～ 令和7年4月13日(日)
映 画	高知県立美術館 秋の定期上映会 「小田香とタル・ベーラ」	高知県立美術館	10月19日(土)・20日(日)
	バリアフリー映画会 『異動辞令は音楽隊!』	オーテピア高知図書館 (高知県立図書館・ 高知市立市民図書館)、 オーテピア高知声と 点字の図書館	11月3日(日・祝)
文 芸	追悼 市原麟一郎先生 ～土佐民話よ、永遠に～	高知県立文学館	10月5日(土)～ 令和7年1月5日(日)
	第27回児童生徒文学作品 朗読コンクール	高知県立文学館	11月10日(日)
	全国高等学校ビブリオバトル2024 高知県大会	オーテピア高知図書館 (高知県立図書館・ 高知市立市民図書館)	11月17日(日)
総合文化	企画展 「土佐和紙のちから～文化財補修用紙の今～」	高知県立高知城歴史博物館	9月14日(土)～12月8日(日)
	古代ものづくり体験教室 (銅鏡づくり・ガラス勾玉づくり・土器づくり)	高知県立埋蔵文化財センター	9月16日(月・祝)／銅鏡づくり 10月27日(日)／ガラス勾玉づくり 12月15日(日)／土器づくり
	企画展Ⅱ「木製品にみえる古の土佐」	高知県立埋蔵文化財センター	10月20日(日)～ 令和7年3月31日(月)

会 場	参加者数(人)	行事内容と成果等
土佐市複合文化施設 つなーで・ブルーホール	407	高知市以外での開催を試み、土佐市で実施しました。アクセス面での不安もありましたが、例年の当館開催とほぼ同様の集客を達成しました。改めて、ヨーロッパ企画が高知にしっかり根付いていることを実感しました。
高知県立美術館ホール	296	平日開催にも関わらず、ポルトガルの気鋭振付家のダンス作品への期待から県内外から舞台芸術ファンが駆け付けた。作品が発する強いメッセージ性に心揺さぶられた観客が多く、終演後は多数のコメントがアンケートに寄せられた。
高知県立美術館1階展示室D	3,800	895点の応募作品のなかから、232点を展示しました。独創的で感性溢れる作品の数々は、訪れた多くの人に感動を与え、障害のある方への理解につながっていることが感じられます。
高知県立美術館2階 展示室B・C	2,343	幕末維新期を代表する土佐の絵師、河田小龍の生誕200年を記念して、高知県立坂本龍馬記念館、高知県立歴史民俗資料館と連携することで、激動期をマルチな才能をもって生き抜いた小龍の多様な活躍を紹介することができた。
高知県立美術館2階 石元泰博展示室	2,769	当館が誇る高知県出身の写真家・石元泰博の膨大なコレクションより、石元ゆかりの地であるアメリカ・シカゴの冬の情景を映した作品をご紹介します。
高知県立美術館ホール	249	小田香監督と小田が師事したタル・ベーラ監督の作品を全21本上映し、小田監督によるトークも行った。あわせて上映することで、二人の作品の共通点やそれぞれの魅力を感じていただく機会となった。
オーテピア4階ホール	75	来場者75名中、視覚障害者が2名、ヒアリンググループ受信機利用者が1名いた。視覚障害者の方から「30数年ぶりに素晴らしい映画を見させていただきありがとうございました」という感想があった。
高知県立文学館	1,824	市原先生の民話採集取材ノートや採話テープの展示など、市原先生の精力的な取材活動の一端を垣間見ることができると、多くの関心が寄せられた。ジオラマ民話マップや民話カードで市原先生の遺した民話に触れていただくことができた。
高知県立文学館ホール	県審査出場者 22名、 一般(観客) 延べ108名	県審査には、地区審査を経て選出された22名の児童生徒が出場し、実力を出し切った素晴らしい朗読を届けてくれた。また、特別審査委員の井手上恵氏による記念講演会「声と言葉の選び方～気持ち伝え、気持ちを引き出す～」は、テレビキャスターとして活躍中の井手上さんが自身の体験を交えて実演を交えながら講演。会場の皆さんとのやり取りの中で、多くの気づきがある講演となった。
オーテピア4階ホール・ 研修室	約80人	発表者16名が2グループに分かれて予選を行い、各グループ2名が本選に出場。4名で本選を行い、投票によってチャンプ本賞を決定した。チャンプ本賞を受賞した生徒は、2025年1月に東京都で開催された決勝大会に出場。
高知県立高知城歴史博物館	12,955	土佐和紙を使って修理された国宝・重要文化財などを含む資料の展示および講演会や講座などの関連行事をとおして、文化財補修用紙としての土佐和紙について県内外の方に紹介できた。
高知県立埋蔵文化財センター 体験学習室	銅鏡41名 ガラス勾玉36名 土器31名	参加者は古代の人々のものづくりの知恵や技術に感心するとともに、自分の手で作ることの難しさや作り上げる満足感を感じていた。家族での参加が見られ、もう一度挑戦してみたいという感想も多く得られた。
高知県立埋蔵文化財センター	747	縄文時代から近世までの人々の営みの中で使われてきた農耕具や儀式用の道具、食事具など木製品の出土品の展示を行った。観覧者から出土品への驚きとともに郷土の歴史に対する興味と関心がうかがえた。



部門名	行事名	主催団体	日 程
総合文化	特別展「3館連携 生誕200年 河田小龍－龍馬に世界を教えた男－」	高知県立坂本龍馬記念館	10月23日(水)～12月15日(日)
	3 館連携企画 生誕200年 河田小龍－土佐の人々とのつながり－	高知県立歴史民俗資料館	11月1日(金)～ 令和7年1月5日(日)
	contact Gonzo(コンタクト・ゴンゾ) パフォーマンス	高知県立美術館	11月3日(日・祝)
	第12回 旧大栃高校民俗資料一般公開	高知県立歴史民俗資料館	11月9日(土)・10日(日)
	連続講演会「幕末再入門」	高知県立坂本龍馬記念館	第1回:11月9日(土) 第2回:12月14日(土)
	第47回高知県高等学校総合文化祭	高知県高等学校文化連盟	11月12日(火)～11月17日(日)
	龍馬まつりin記念館	高知県立坂本龍馬記念館	11月15日(金)～11月17日(日)
	コーナー展 干支の玩具 巳	高知県立歴史民俗資料館	12月6日(金)～ 令和7年1月19日(日)
	ウォーキングイベント・史跡巡り	高知県立坂本龍馬記念館	12月8日(日)

会 場	参加者数(人)	行事内容と成果等
高知県立坂本龍馬記念館	17,994	幕末維新期を代表する土佐の絵師、河田小龍の生誕200年を記念した展覧会。『漂異紀略』をはじめとする資料によって小龍が活躍した時代背景や人脈、龍馬との関わりなどを紹介した。
高知県立歴史民俗資料館	1,906	県立3館の、企画立案から広報に至るこれまでにない幅広い連携により、小龍のマルチな活躍を紹介することができた。また、絵本作家の柴田ケイコさんに小龍を親しみやすいキャラクターにしてもらうなど来館者の裾野を広げる取組も行った。
高知県立美術館	116	県立美術館の回廊を客席に見立て、中庭の池でアーティストのパフォーマンスを開催した。夜間の美術館公演であったため、美術ファンのみならず子どもや遠方からの来場者等、多様な層の方々に楽しんでいただけた。
旧大栃高校	104	民俗資料の公開に加えて、地元の「ものべ歴史と民話の会」や「塩の道保存会」「いざなぎ流神楽保存会」の協力を得て、展示、昔語り、町歩き、トーク、物作り体験などさまざまな催しを行い、好評だった。
高知県立坂本龍馬記念館	第1回:30 第2回:30	令和6年度連続講演会「幕末再入門」の第一回は「龍馬の真髓－龍馬は何者?－」・第二回は「土佐藩主山内家官位考」をテーマにした講演を行い、参加者からは好評をいただいた。
高知市文化プラザかるぽーと他	2,200	12日の開会式をはじめ、会期中には多くの方に来場いただき、高校生の日頃の成果を発表することができた。また、多くの部門で来年度の全国高等学校総合文化祭の出場者や出場校を決定した。
高知県立坂本龍馬記念館	1,738	毎年坂本龍馬の誕生日11月15日に近い日曜日に、桂浜で「龍馬まつり」が行われる。当館でも「龍馬まつりin記念館」を開催し、15日の無料開館や、龍馬書簡の3日間限定公開と解説、龍馬カルタ大会や海に見えるカフェなどを行った。
高知県立歴史民俗資料館	450	館蔵の郷土玩具コレクションを公開するとともに、背景にある日本各地の暮らしや庶民信仰を紹介することにより民俗資料の1つの分野である郷土玩具について理解を深めてもらった。また、新年を迎える季節にふさわしいと好評だった。
高知県立坂本龍馬記念館	21	特別展「河田小龍－龍馬に世界を教えた男」の関連企画として、小龍が生まれた高知市はりまや町を中心に史跡巡りを行った。学芸員の解説をききながら、約4kmのまちあるきを楽しんだ。



○協賛行事

※ 記載内容は原則として事業実施報告書の記載に則しています。
※ 開催日（部門別）の順に掲載しています。※芸術祭開催期間中の参加者数を掲載しています。

部門名	行事名	主催団体	日 程
演 劇	高知市民劇場第371回例会 イッツフォーリーズ公演 ミュージカル『おれたちは天使じゃない』	高知市民劇場	11月19日(火)・20日(水)
舞 踊・ ダンス	Masako Ballet Works 第9回発表会	Masako Ballet Works	10月27日(日)
	Modern Ballet Studio SPROUT発表会	Modern Ballet Studio SPROUT	11月24日(日)
	慶祥芳之の會	慶祥流祥芳会	11月30日(土)
音 楽	午後の音楽会	高知音楽協会	9月21日(土)
	Team幽弦チェロアンサンブルコンサート	Team 幽弦	10月14日(月・祝)
	第41回定期演奏会	高知フライデーウィンド アンサンブル	10月19日(土)
	第10回ヤマハジュニアピアノコンクール ～高知県西部地区予選大会～	ジュニアピアノコンクール 実行委員会	10月20日(日)
	創立60周年記念 第71回定期演奏会	高知コンサート・グループ	10月26日(土)
	下八川圭祐記念 第48回高知音楽コンクール	(公財) 高知新聞厚生文化 事業団	11月3日(日・祝)
	都山流高知県支部 令和6年度 尺八定期演奏会	都山流高知県支部	11月10日(日)
	第63回 定期公演	高知コーラス合笑団	11月17日(日)
	第32回 高知県民謡まつり	高知県民謡協会	11月24日(日)

会 場	参加者数(人)	行事内容と成果等
高知市文化プラザかるぽーと・ 大ホール	831	イッツフォーリーズの財産演目を堪能しました。高知では三演目で、三作品とも観た会員も、今回やっと観られたという会員も皆で楽しみました。また今回コロナ禍で中止していた出演者を囲んでのロビー交流会を行うことができました。
高知市文化プラザかるぽーと・ 大ホール	1,000	開場時はお天気にも恵まれ、例年以上にたくさんのお客様にご来場していただくことができました。三大バレエのひとつである『眠れる森の美女』に生徒全員で取り組む中で、踊りだけでなく演技力も向上しました。
高知市文化プラザかるぽーと・ 大ホール	700	第1部「太陽のシンフォニー」 第2部「ティンカー・ベル」
高知市文化プラザかるぽーと・ 大ホール	548	長唄囃子連中による演奏と一流スタッフ・実力派舞踊家・古典芸能解説者による本格的な日本舞踊公演。観客者数548名。日本舞踊・伝統芸能を初めて観覧する方にもわかりやすいと好評。
高知県立美術館ホール	147	A・ブルックナー生誕200年、団伊玖磨生誕100年を記念して日本歌曲、ドイツ歌曲、ピアノ曲をプログラムに入れました。女声合唱団のリングラインは今年亡くなられた星野富弘さんの詞と、なかにしあかねさんの曲が強く感じました。
高知県立美術館ホール	400	今年は初めて満席となりました。芸術祭のパンフレットへの掲載もかなりの効果があったと思います。ワークショップのチェロアンサンブルへの参加も過去最大となり、徐々に浸透してきたことを感じられるコンサートでした。
高知県立県民文化ホール・ オレンジホール	1,006	1部：序曲「春の猟犬」/A.リード、組曲「惑星」より「木星」/G.ホルスト、ほか。 2部：高知県沖縄三線愛好会との合同企画ステージ 島人ぬ宝/BEGIN、涙そうそう/夏川りみ、ほか。 3部：キャラバンの到着/M.ルグラン、愛の讃歌/M.モノー、ほか。 史上初の1,000人越えとなった定期演奏会は成功裏に終えることができました。
四万十総合文化センター しまんとびあ・りぐるホール	30	新しいホールでの開催ということもありみんな楽しみにこの日をむかえました。小さいながらピアノの響きがとてもよくて、良かったです。2次審査に4名の方を選出させていただきました。
高知県立県民文化ホール・ グリーンホール	420	記念すべき創立60周年記念コンサートとなり、多くの出演者が参加し、とても華やかな演奏会になりました。当日は約420名のお客様にご来場いただき、会場では温かい拍手に包まれておりました。終演後のお客様の笑顔を見ることができ、とても嬉しい思いでいっぱいでした。
高知県立県民文化ホール・ グリーンホール	約120	県内唯一の総合的クラシック音楽コンクールで、今年は一般9名、学生10名の計19名からの申込があり、下八川賞1位、2位、3位、高知音楽奨励賞3名の計6名が受賞しました。
高知県立美術館ホール	100	「三曲演奏」を県民の皆さんに広くご紹介することを目的に開催しました。演奏曲は尺八曲が3曲、絃方との合奏曲が8曲、合わせて11曲としました。絃方のご協力を得て内容のある演奏会になったと思います。
高知県立県民文化ホール・ オレンジホール	668	今年の定期公演は、創立70周年記念「高知で歌って70年」をテーマに、コロナ以前に立ち返り気合を入れて公演を行いました。二部ではよさこい踊りをいれたり、大漁旗を振ったりしました。三部の「阪神・淡路大震災」を詠った、「瓦礫の街から」では多くのお客様に感銘を与えたのではないかと思います。
高知県立県民文化ホール・ グリーンホール	100	民謡協会加入の6団体が参加し、三味線・尺八・太鼓に合わせて唄うオープニングに始まり、全国の民謡を中心にそれぞれの団体の特徴を活かした、三味線・尺八・太鼓の演奏やその伴奏で唄や踊りを披露しました。



部門名	行事名	主催団体	日 程
音 楽	高知交響楽団第173回定期演奏会	高知交響楽団	12月1日(日)
美 術	第33回のいち動物公園写真コンテスト作品展	(公財) 高知県のいち動物公園協会	9月15日(日)～11月4日(月・振)
	「小さきものたち」展	中土佐町立美術館	9月19日(木)～11月17日(日)
	藤沢瑞華個展「わたしのなかのカケラたち」	いの町紙の博物館	9月22日(日・祝)～10月19日(土)
	第15回四国三郎吉野川源流・利水域交流美術展覧会	大豊町・本山町・土佐町・大川村並びに各町村教育委員会・高知新聞社	10月4日(金)～11月23日(土・祝)
	第5回プーベ・ルルド創作人形会球体関節人形作品展「想いのかたち」	プーベ・ルルド創作人形会	10月6日(日)～10月14日(月・祝)
	第31回 モラード会展	いの町紙の博物館	10月6日(日)～11月3日(日・祝)
	第65回室戸市美術展覧会	室戸市教育委員会事務局	10月19日(土)～10月27日(日)
	きれいな絵(リニューアル記念事業)	香美市立美術館	11月2日(土)～12月22日(日)
	夜の紙博－光る森の羽音と葉音－	いの町紙の博物館	11月22日(金)～11月24日(日)
映 画	シネマな夜VOL.292「ハワーズ・エンド」	シネマ・サンライズ	9月18日(水)
文 芸	しきなみ短歌の世界 初めての短歌教室	(一社) 倫理研究所 家庭倫理の会 高知	11月10日(日)
伝統文化	松村紫乃&グループ琴 50周年記念公演	松村紫乃 & グループ琴	10月13日(日)
	正曲一絃琴白鷺会 定期演奏会	正曲一絃琴白鷺会	11月2日(土)
	秋季いけばな県展	高知県華道協和会	11月23日(土・祝)・24日(日)

会 場	参加者数(人)	行事内容と成果等
高知市文化プラザかるぽーと・大ホール	774	ドヴォルザークの交響曲第9番「新世界より」をメインに、チャイコフスキーの「眠れる森の美女」とスメタナの「モルダウ」と有名な曲目を披露しました。いつもの演奏会以上にじっくりと聴いてくださっていたのが印象的な演奏会でした。集客としてはまずまずの結果でした。
高知県立のいち動物公園 どうぶつ科学館	10,014	写真コンテスト応募作品の中から、審査で選ばれた入選作品61点を展示しました。動物たちの一瞬の表情や動きを捉えた素晴らしい作品の数々をご覧いただき、多くの来園者の皆様に楽しんでいただけたと思います。
中土佐町立美術館	572	展覧会の前半2週間は、「小さきアーティストたち」展と題して町内の子どものたちの作品を小展示室で展示した。そのため、若い家族連れが多く来館し、町内の若年層に美術館の活動を知っていただく良い機会となった。
いの町紙の博物館	2,478	草木で染めた紙を漉き、意図せず生まれた形を見立てて動物へと昇華させる作品を展示した。来館者からは、和紙ならではの優しい雰囲気表現が新鮮で、好評であった。
①大豊町総合ふれあいセンター ②大川村山村開発センター ③本山町プラチナセンター ④土佐町保健福祉センター	393	今年も、吉野川下流域である香川県からの作品も多数出品いただき、文化活動を通じた上・下流域交流としての美術展が開催された。また、高知県嶺北地域の4町村を巡回展示し、創作した優れた美術作品を一堂に公開することで、関係住民の美への関心を高めることができた。
clara-garden クララガーデン	510	高知県(四国)で唯一の球体関節人形教室メンバーによる創作人形40余体を展示。高知新聞にも掲載され、初めて球体関節人形を見る来場者も多く、一般的な「お人形」のイメージとは異なる球体関節人形にとっても驚かれ、大変好評だった。
いの町紙の博物館	2,454	長年活動してきたモラード会の最後の展示会であった。会員が制作した多様な作品を会場いっぱいに展示し、多くの来館者に観覧してもらうことができた。
室戸勤労者体育センター	1,605	令和5年度より、一般と小中学校の部を同時開催し、今年度は「人口減が見応えのある展覧会になった」「子どもが本物の作品を見れる場ができて良かった」と評価をいただき、幅広い年齢層が楽しめる場になっている。
香美市立美術館	1,315	本展は、リニューアル記念事業として地元市民にターゲットを絞ることで誰もが分かりやすい、きれいな絵の収蔵品と高知県立美術館所蔵品の65点を展示し、知っていただく機会として初日を無料開放しました。当館が初めての方も多く、満足気に鑑賞されていました。
いの町紙の博物館	1,599	和紙と光をコラボレーションさせた作品を夜間開館で開催した。作品展示のほか、ワークショップの開催、カフェの設営、フォトコンテストの開催など、様々な形で「和紙と光」に親しんでもらうことができた。
高知県立美術館ホール	119	20世紀初頭に生きた人々を描いたイギリス文学の映画化らしく、登場する人物の心情が身分や階層を超えて情感豊かに描かれた作品だった。エマ・トンプソン、アンソニー・ホプキンスなどアカデミー賞俳優たちの名演は、映画を見る喜びを蘇らせてくれる。
高知市立自由民権記念館 研修室	15	スタッフ9名、初めての方15名(芸術祭のガイドブックを見て来て下さった方2名を含む)にて開催。リレー短歌で、まず、短歌に慣れてから、それぞれに短歌を詠み、15名の方の短歌にみんなで、感動を分かち合い盛会の中、修了した。
高知県立美術館ホール	230	箏曲(箏・三絃)の伝統と普及に努めた50年の歩みを披露する事を目的とした公演になった。古典から現代音楽まで幅広く、研究と練習を積み重ね、これからも高知県の芸術文化発展の為、努力を続けてゆきたい。
高知市立自由民権記念館 民権ホール	約70	初めて一絃琴・十三絃箏・ピアノ・ヴァイオリン・フルートでアニメ曲を演奏しました。邦楽と洋楽の音色が共鳴しあい、またお互いサポートしながら一つの曲を仕上げる楽しさも発見できました。
高知市文化プラザかるぽーと 7 階第 1・第 2 展示室	1,477	高知県内16流派の会員、子弟、児童、生徒が参加し大作、小作品合わせて120点の作品を展示しました。



部門名	行事名	主催団体	日 程
伝統文化	神宮紙誕生100年記念展	いの町紙の博物館	11月30日（土）～ 令和7年2月16日（日）
総合文化	第20回四万十市文化祭	四万十市文化祭執行委員会	7月2日（火）～ 令和7年1月12日（日）
	第53回高知県教育文化祭	高知県教育文化祭 運営協議会	9月16日（月・祝）～11月30日（土）
	第19回香美市芸術祭	香美市芸術祭実行委員会	9月28日（土）～11月17日（日）
	安田町芸能発表会	安田町文化協会	10月12日（土）
	第29回 宿毛市オールドパワー文化展と 女のまつり	宿毛市教育委員会 宿毛市老人クラブ連合会 宿毛市文化協会	10月18日（金）～10月20日（日）
	放送大学高知学習センター 芸術文化祭2024	放送大学高知学習センター	11月2日（土）・3日（日・祝）
	第27回日高村文化祭	日高村文化推進協議会	11月3日（日・祝）
	第30回潮風のキルト展	特定非営利活動法人NPO 砂浜美術館	11月15日（金）～11月17日（日）
	安田町文化祭	安田町文化協会	11月16日（土）・17日（日）
	第17回さかわ・酒蔵ロード劇場2024	第17回さかわ・酒蔵ロード劇場 2024実行委員会	11月30日（土）

※行事名「白拍子舞奉納～太平洋の断崖・竜宮神社にて～」は、雨天のため開催中止。

会 場	参加者数（人）	行事内容と成果等
いの町紙の博物館	620	1924年（大正13）に伊野の中田製紙工場で開発された「神宮紙」。誕生から100年を記念し、展示会を開催した。神宮紙の開発の経緯や意義など、土佐和紙の歴史上重要な事項について分かりやすく紹介することができた。
四万十市総合文化センター しまんとぴあ・ほか	6,592	合計30団体の参加があり、今年度から新施設しまんとぴあでの開催となった。リーディング公演の初参加や子供向けワークショップなど盛会な文化祭となり事故もなく無事終了した。
・高知県立県民文化ホール、 オーテピア高知、高知市文化プラザかるぼーと、高知県教育センター、高知県立丸の内高校、高知市立三里小・中学校 ・須崎市立市民文化会館 ・四万十市総合文化センター しまんとぴあ ・夜須公民館	14,032	昨年度から全ての行事が通常開催になり、会場への入場制限がなくなったことで、保護者や一般参観者が増えました。一方、児童生徒数の減少や指導者不足もあり、発表者や応募者は減少の傾向にあります。
香美市立中央公民館、 香美市役所	1,213	香美市芸術祭は香美市文化協会員をはじめとし、市内の児童生徒、一般参加者が、日頃の文化活動の成果を発表する場であると共に、各会場にご来場いただいた多くの皆様の文化芸術を通じた交流を深める場として盛大に開催されました。
安田町文化センター	89	文化教室生を中心に延べ79人の方が出演しました。安田町文化協会会長は、「発表会が楽しいひと時となり、明日への活力となりますように」と開会宣言を行いました。詩吟や謡曲、日本舞踊や演歌など41演目が披露され、安田はまゆう合唱団の生演奏による元気な合唱で閉会しました。
宿毛市立宿毛文教センター	255	昨年に比べ文化展への作品出品数は減少したものの、宿毛市老人クラブ連合会の積極的な参画に助けられ充実した内容となった。最終日の女のまつり（芸能発表会）も出演者の元気いっぱいのパフォーマンスに観客も盛り上がり楽しいひと時を過ごすことができました。
放送大学高知学習センター	106	美術展覧会、パネル展示、ワークショップ、サークル・同好会の催し物など多数のプログラムを開催しました。悪天候の日もありましたが、昨年度よりも多くの方にご来場いただき好評のうちに実施することができました。
日高村社会福祉センター	150	文化・芸能分野において、村内最大のイベントであり、村民の間でも楽しみの一つになっている。出演者も小学生から高齢者の方まで幅広く熱心に日々研鑽した演技や踊り等を発表し、観客を沸かせた。
高知県黒潮町・入野松原	1,378	全国から応募のあった118点のPATCHワーク・キルト作品を松原に展示。2日間は雨天のため室内展示となった。最終日の17日は松原で展示し、たくさんの方にご来場いただき、秋の砂浜美術館の風景を満喫してもらうことが出来た。
安田町文化センター	312	町内の文化教室をはじめ、園児や小中学生、一般応募者の作品が多数展示されました。「親子で本を楽しむ日」として、絵本の読み聞かせに園児たちが楽しく参加し、笑いヨガやスライムづくりなどの体験コーナーでは、子どもから大人まで多くの方が参加しました。このほか、日赤食堂のうどんや生協のキッチンカーの軽食をたくさんの方に楽しんでいただき、賑やかな文化祭になりました。
佐川町上町地区・ さかわ酒蔵の道一帯	3,752	柴田ケイコさんなど新しい作家3名にも加わっていただき、アンケートでの満足度は非常に高かった。が、来場者は昨年より20％減。国政選挙の影響で開催を遅らせたことが主要因。当日は相当冷え込み19時半以降は来訪者が激減。



高知県芸術祭執行委員会 委員名簿

(任期:委嘱の日～令和8年3月31日)
(敬称略、委員長・副委員長を除き五十音順)

役 職	氏 名	所 属 職 名 等
委 員 長	新納 朋代	(株)テレビ高知メディア技術マスター・ 放送実施担当シニアエキスパート
副委員長	鎌倉 昭浩	(公財)高知県文化財団理事長
委 員	上本 竹永	高知県文化協会事務局長
委 員	大原 恵里子	高知県立県民文化ホール館長
委 員	奥野 克仁	高知県立美術館学芸課長
委 員	織田 敦子	高知県立文学館学芸課長
委 員	北村 真実	NPO法人こうち音の文化振興会理事長
委 員	山口 隆広	(公財)高知県観光コンベンション協会 プロモーション部プロモーション課長
委 員	吉岡 一洋	高知大学人文社会科学系教育学部門 地域協働学部 教授
委 員	渡部 淳	高知県立高知城歴史博物館長